

平成30年度佐久城山小学校グランドデザイン

保護者・地域の願い

- ・基礎学力を身につけてほしい。
- ・自分の考えをはっきり言える子になってほしい。
- ・挨拶や返事がしっかりとでき子になってほしい。
- ・思いやりのある子に育ってほしい。
- ・健康で安全な生活をしてほしい。
- ・この地域の将来を支えてほしい。

学校教育目標

本当の生き方を求め
 “自分の手足を動かし、
 頭を働かせ、
 心で感じとる”

こんな佐久城山小の子どもたち

- ・活動する内容が明確になると体験活動に生き生きと取り組む児童。
- ・興味・感心のあることに対しては、前向きに最後まで夢中になって取り組む児童。
- ・自ら課題を見つけ、見通しをもって活動の計画を立てて取り組みたい児童。
- ・自ら追究し、進んで活動を創り上げ、思いや考えを表現したい児童。

<基盤に据えるもの>

人権尊重の視点に立った学校づくり

人権が尊重される 学習活動・人間関係・環境づくり

自分の手足を動かす 子ども

- 全ての学習や学校生活で十分に体を使って動かす。
- 自分で体験し、共に学び合う。

自分の頭を働かせる 子ども

- 自分らしい考え方や、やり方ができる。
- 一人一人が自分を出し合って共に学び合う。

自分の心で感じる 子ども

- 五感を使って自分らしい感じ方ができる。
- 自分が感じたことを自分らしく表せる。

本年度の重点目標

手足を動かし、友と考え合って、自らを表現できる子どもたち

「3つのS」と「城山プラン」を基盤にした学校づくり

地域と連携し、自ら動いて力を付ける学校を目指して

手足

～ 主体的な子どもの姿が見える佐久城山「SHOW」学校～

- 自分たちでつくる児童会
 - ・仲間意識を育てる登校班
 - ・他学年との交流活動
 - ・企画、運営する児童会行事
 - ・学校生活の課題を自分たちで解決しようとする活動
- 地域から学ぶ
 - ・自然環境を生かした学び
川遊び、地域探検
 - ・地域の人から学ぶ
菜の花畑見学、麦踏み、じゃがいもコロケ作り、桜草見学、稲作づくり等、あらゆる活動の場で
 - ・地域の方々との交流
- 地域とともに健康・安全・安心のための連携づくり
 - ・家庭、地域と連携した食育・眠育及び情報教育
 - ・保健活動の充実、発信
 - ・危険箇所確認と安全マップづくり
 - ・見守り隊との連携
 - ・公民館、育成会、区長会との連携

子どもが生き生きと生活し授業に取り組めるように

頭

～ 諸々受け止めてともに学ぶ佐久城山「しょう(背負う)」学校～

- 日々の授業の充実
 - ・「ねらい」「めりはり」「みとどけ」3視点の授業展開
 - ・教室のユニバーサルデザイン化
 - ・どの子にもわかりやすい授業づくり
 - ・主体的・協同的な学びの充実
(個人・ペア・グループ・少人数)
 - ・学年内授業交換(教科担任制を含む)
 - ・ノート指導や板書の工夫
- 基礎基本の定着
 - ・「授業の約束」の徹底
 - ・ドリル学習の充実
 - ・漢字学習の実施
 - ・児童の実態や課題に応じた指導体制づくり、教材研究
 - ・家庭における自主学習の研究
 - ・「伝え合う」授業の実践
 - ・「放課後学びと学習」の発展・充実
- 佐久城山運動の充実
 - ・学校周辺の運動環境の充実
 - ・全校での体力づくり、運動への取組(城山サーキット)

子どもの声に耳を傾け些細なサインをキャッチ

心

～ 心温かく笑顔・歌声いっぱいの楽しい佐久城山「笑・唱」学校～

- 安心できる人間関係づくり
 - ・教師の立ち位置を子どもの内側に
 - ・全員参加できるやさしい学級活動
- 教育相談の充実
 - ・保護者、子どもの声を大切に相談体制づくり
 - ・教育相談・特別支援教育コーディネーターとの日常的な連絡調整
- 相談活動の充実
 - ・子どもと向き合う時間の確保
 - ・児童相談の定期的な確保
 - ・心とからだの相談窓口の活用
- 家庭・学校外との連携
 - ・生活習慣調査(睡眠・食事・SNS)
 - ・安心できる家庭づくり
(学級・学年PTAセミナー)
 - ・SMA、SC、SSW等との拡大支援会議の開催
 - ・児童館との定期的な連絡会
- 研修会の実施
 - ・各職員による実践発表会
 - ・職員の資質向上を目指した研修

□保護者、地域の声、職員の思いを教育課程・学習指導の改善に生かす

- ・授業参観、学校開放
- ・CS推進委員会
- ・学校運営委員会
- ・学校評価
- ・児童の授業評価
- ・お便り(学校・学年・級)
- ・個別の生徒指導
- ・職員会での子どもに係わる情報交換